

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで

中山道（東下り）を歩くー9



平野 武宏

バーチャルウォーク東海道五十三次で京都・三条大橋に到着した寅次郎、帰路はバーチャルウォーク中山道六十九次で江戸・日本橋へ戻ります。

今回は各宿場を紹介しながら、京都からの中山道（東下り）を楽しみます。各宿場の紹介は山と溪谷社の「歩いて旅する中山道」を参考にしました。写真は無料画像を使用しています。

前は宮ノ越宿から本山宿まで歩きました。今回は洗馬宿から長久保宿まで歩きます。

[洗馬宿] 長野県塩尻市洗馬 最寄駅 JR中央本線 洗馬駅

2024年4月21日洗馬（せば）宿（京都・三条大橋から298km）に到着しました。洗馬宿は中山道と善光寺街道の追分（分岐）です。

洗馬の名は木曾義仲が馬の脚を洗った湧水があったことに由来するとのこと。洗馬宿は塩尻宿同様、中山道のルート変更時に新設され、中山道では板橋、追分、洗馬の3宿場に荷物貫目改所（写真下左）が置かれました。荷物の目方を検査する役所です。

1932年（昭和7年）の大火でほとんどの建物が焼け落ちてしまいました。写真下右は高札場跡の碑です。



[塩尻宿] 長野県塩尻市塩尻町 最寄駅 JR中央本線 塩尻駅

2024年4月25日塩尻宿（京都・三条大橋から306km）に到着しました。塩尻の地名は太平洋産の表塩と日本海産の裏塩が入る接点で付けられました。初期の中山道は下諏訪から、岡谷、小野、牛首峠を経て贄川に至る道でしたが1614年（慶長19年）に塩尻峠越えにルートが改められました。塩尻宿は中山道、松本経由の善光寺街道、岡崎に至る三州街道の三街道が交差する交通の要衝で大いに栄えました。昔の建物は明治時代の大火で大部分が失われました。一部に往時の繁栄ぶりが伺えます。写真下左は町屋、写真下右は脇本陣跡の碑です。



[下諏訪宿] 長野県諏訪郡下諏訪町

最寄駅 JR中央本線 下諏訪駅

2024年4月27日下諏訪宿（京都・三条大橋から317km）に到着しました。下諏訪宿は中山道と甲州街道の合流地です。東は和田峠、西は塩尻峠に挟まれた交通・軍事上の要衝でもありました。また諏訪神社下社の門前町、中山道で唯一温泉が湧く宿場町として賑わいました。写真下左は町屋、写真下右は本陣跡です。





写真左は名物の「塩羊羹」です。海のない信州では貴重な塩を加えた羊羹でした。創業は明治時代なので江戸時代の旅人は食べられませんでした。厳選した北海道十勝産小豆、茅野名産の寒天を原材料にして檜の薪で炊いて手作業で練り上げるという変わらない製造方法で作られています。

[和田宿] 長野県小県郡長和町和田

最寄駅 長久保バス停からバス利用

2024年5月4日和田宿（京都・三条大橋から339km）に到着しました。写真下左は重厚感あふれる出桁造り、出格子の家並み、写真下右は本陣の冠木門です。1861年（文久元年）3月の大火で大半が焼失、同年11月に皇女和宮一行の宿泊が決まっていたため幕府からの拝借金を得て急遽再建されました。現在残っている建物は当時建てられたものです。



[長久保宿] 長野県小県郡長和町長久保

最寄駅 長野新幹線上田駅からバス利用

2024年5月4日長久保宿（京都・三条大橋から347km）に到着しました。長久保宿は前後に笠取峠、和田峠を控えていたことや大門通、北国街道につ

ながる道に接する交通の要衝でした。塩尻宿に次ぐ旅籠がありました。
また温泉場がある下諏訪宿に泊まる場合、江戸方の旅人は前日、京方の旅人は翌日に長久保宿に泊まるのが好都合だったようです。
写真下左は家並み、写真下右は復元された高札所です。



今回はここまでとします。

平野 寅次郎 拝